みやもとたけのすけ

宮本武之輔交流記念講演会

～宮本武之輔の功績を通じた「愛媛県松山市」と「新潟県燕市」の交流促進に向けて～

高橋裕氏

記念講演

演題：松山の土木偉人 宮本武之輔　～燕市大河津での偉業～

高橋裕 東京大学名誉教授

2015年（第31回）日本国際賞（Japan Prize）受賞

映　画

「民衆のために生きた土木技術者たち」宮本武之輔

宮本武之輔

大河津分水可動堰

「民衆のために生きた土木技術者たち」
2005年・ハイビジョン・65分
監修＝高橋裕（東京大学名誉教授）
監督＝田部純正
撮影＝藤崎彰
ナレーション＝江守徹
企画＝大成建設株式会社
制作＝大成建設株式会社
（株）日映企画　中嶋康勝

松山市 興居島の顕彰碑と銅像

パネルディスカッション

「災害につよい川づくり」について

司会者　　鈴木幸一　宮本武之輔交流事業実行委員会会長
パネラー（予定）
河川行政関係者
防災NPO法人関係者

開催日　2015年4月14日(火)

時　間　14時00分～16時30分

式　典	14時00分～14時25分
映　画	14時25分～14時45分
記念講演	14時50分～15時50分
パネルディスカッション	15時55分～16時30分

場　所　松山市役所本館 11階大会議室

主催：宮本武之輔交流事業実行委員会
共催：松山市・宮本武之輔を偲び顕彰する会

宮本武之輔について

　明治25年愛媛県松山市の興居島に生まれ、小学校の頃、父親が事業に失敗し、全財産を失い中学校に進学できず、瀬戸内海航路の貨客船のボーイとなって家計を助けた。
　その後、興居島の篤志家宮田兵吉の援助を受け勉学の道に戻り、私立錦城中学校に編入学し、異父兄窪内石太郎の影響を受け工科のコースを歩む決心をする。第一高等学校を無試験入学、東京帝国大学土木工学科を主席（恩賜の銀時計組）で卒業後、大正６年内務省に入省する。
　利根川、荒川の大規模河川改修を手掛け、荒川では、「小名木川閘門」の設計施工を担当し、大正１２年から大正１４年の１年半、鉄筋コンクリート構造物の研究のため、欧米諸国（フランス、ドイツ、イギリス、アメリカ）を歴訪した。
　昭和２年の信濃川大河津自在堰陥没事故で、信濃川が干上がり農業用水が枯渇する事態となったため、内務省の威信をかけた可動堰建設の陣頭指揮をとり、出水や風雪、風土病と戦いながら、わずか４年後の昭和６年に完成させ、越後平野を洪水から守り、民衆のために尽した。
　また、コンクリート工学博士となり、「鉄筋コンクリート」「治水工学」等を執筆、昭和１２年に東京帝国大学教授（河川工学）を兼任する。
　日本工人倶楽部発足など、技術者の地位向上の運動を展開するとともに、科学技術の体制づくりのため、科学技術庁の設立に取り組んだ。
　昭和１５年に内務省土木局から、内閣直属の中国占領地域に対する最高行政機関であった興亜院の技術部長に抜擢され、昭和１６年には国の最高政策立案機関であった企画院の次長（官僚のトップ）に就任。
　昭和１６年１２月２４日、東京で悪性肺炎のため急逝（享年４９歳）

高橋裕氏（たかはしゆたか）プロフィール

生年月日 1927年1月28日　静岡県生まれ
学歴:
1950年 東京大学第二工学部卒業
1955年 東京大学大学院（旧制）研究奨学生課程修了
職歴:
1955年 東京大学工学部専任講師
1961年 同　助教授
1968年 同　教授
1987年 東京大学名誉教授
1987-1998年 芝浦工業大学工学部教授
2000-2010年 国際連合大学上席学術顧問
所属機関:
日仏工業技術会、公益社団法人雨水貯留浸透技術協会、一般社団法人自然環境共生技術協会

主な受賞歴:
1978年　ネパール王国ゴルカ・ダクシン・バフ勲章
1981年　フランス共和国教育功労賞シュバリエ賞
1987年　国土庁（現国土交通省）水資源功労者表彰
1994年　明治村賞
1998年　土木学会最高賞　功績賞
2000年　国際水資源学会クリスタル・ドロップ賞（最高栄誉賞）
2007年　瑞宝中綬章
2011年　日本地下水学会地下水学術賞
2015年　日本国際賞（Japan　Prize）
他　ユネスコ活動功労者表彰

科学技術の分野で世界的に権威のある〝Japan Prize〟「日本国際賞」
　国際社会への恩返しの意味で、日本にノーベル賞並の世界的な賞を作ってはどうか、との日本政府の構想に、松下幸之助が〝畢生の志〟のもとに寄付をもって応え、実現したもの。
　授賞式は、天皇・皇后、内閣総理大臣、衆参両院議長、最高裁判所長官らが出席する。
　授賞業績：流域管理の革新的概念の創出と水災害軽減への貢献